



# STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2009 推進ニュース —介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

**利用者・家族・地域の事業所と共同した「介護ウェーブ2009」の取り組みを具体化しよう！**

## 「倉敷地域社会保障を守る会」倉敷市と懇談（倉敷医療生協） 住民運動をもりあげないと厚労省の方ばかり向いている市の姿勢はかえられない！

6月2日、倉敷医療生協のケアマネージャーやケースワーカーを中心に「倉敷地域社会保障を守る会」として倉敷市と懇談会し、16名が参加しました。倉敷市議会議員（共産党）1名も同席し、市からは保健福祉局保険部長ほか10名が応対。約1時間40分懇談しました。

要望は、「1. 新しい要介護認定制度により判定された要介護認定および自立支援法による支給量決定が実態をふまえた結果となるよう施策を講じること」「2. 介護報酬改定以前と同じ介護サービスをうけているにもかかわらず4月以降利用限度額を超えた場合、引き続き同じ介護サービスが受けられるよう限度額を超過した部分を市独自で助成すること」「3. 市独自の利用料の負担軽減策を講じること」「4. 市として介護職員パワーアップセミナー開催など介護職員の研修を行うこと」「5. 各地区支所に高齢福祉担当者を配置すること」「6. 市として低所得者向け高齢者住宅の確保について施策を講じること」の6項目です。



## 他の市の助成、減免制度や新認定制度の認定結果の併記について調査すると回答



倉敷市の担当者は、「介護保険制度は全国一律公平なサービスを受けることができる制度であり、地域によって差ができるのはおかしい」「利用限度額いっぱい使っているのはわずか1%であり、その人のために助成するのはどうか」と述べ、厚労省の方針そのままであり、地域住民の介護をどのようにするのかという実施主体としての考えは全くありませんでした。

こちらから、「要支援になり毎日ヘルパーが入れずに困っている全盲の患者さんの事例」や、「要支援1、90才糖尿病、ペースメーカー心、一人暮らしの女性で、4月からの介護報酬アップで自費が出てしまい、年金3万円、要支援で特養申し込みもできない事例」など、実際におこっている困難な実態を知らせ、市独自の助成を求めました。また、新要介護認定制度で大阪堺市が実施している、経過措置を適用しなかった場合の認定結果を併記して申請者に知らせている例をあげ、倉敷市でも同じように認定結果を併記するように要望しました。

市の担当者は、「認定審査会でいろいろ意見がでていることは承知しているが、厚労省からの変更に対応するのが精一杯で、併記して市民から問い合わせがあっても対応できず混乱が予想されたため併記しなかった。他の自治体の調査まで手が回らない」と実情を述べ、他の市の助成、減免制度や介護度併記について調査すると回答がありました。

同席した議員からは、「介護保険財政の余った分を、今期介護保険料値下げにあてたが3億円程度余っているはず。市として何ができるのか検討してほしい」と強く要請しました。

当日は利用者・家族が参加できず残念でした。懇談に参加した職員からは、「市にもっともっと具体例を届けることが必要」「住民運動をもりあげないと、厚労省の方ばかり向いている市の姿勢はかえられない」などの感想が出されました。今年も介護ウエーブがんばります！

（2009年6月18日 倉敷医療生協 医療介護部 田邊牧美さんより）

## 非常勤理事も署名・宣伝行動に参加 -20名の行動で49筆ありました(ヘルスコープおおさか)

6月11日（木）午後5時～6時、コープおおさか病院近くのスーパーイズミヤ前で、介護保険制度改革を求める署名・宣伝活動を行いました。参加者はケアマネ、ヘルパー等の介護スタッフに加え、組合員



活動部、非常勤の理事さんも参加、総勢20名での行動となりました。ハンドマイクも順番に5名が握り、介護保険制度が改悪されている実態



について語りました。署名を訴えると「その通りですね、署名します」との好反応、短時間にもかかわらず49筆の署名が集まりました。「参加者が多いと元気が出ます。またやりたいですね」との声もあり、今後の計画も立てていきたいと考えています。

## 医労連も介護ウェーブの取り組みに協力－民医労 ケアワーカーの会にて



5月24日（日）に「ケアとワーカーの会」の学習会がおこなわれ、日曜日でインフルエンザ騒ぎがあったのにも関わらず40名余りが参加し、日下部氏の介護報酬の学習会と職種に分かれ分散会をおこないました。かわち野の矢島さんと老健みみはらの牧さんが昨年の大阪民医連介護ウェーブの取り組みを報告し、民医労書記局長の宮田さんも「今年の介護ウェーブ、民医労も協力して取り組みましょう」と力強くあいさつされました。（2009.06.15 大阪民医連 介護福祉ニュース No.2より）

## 大阪民医連介護職部会発足！-91名の参加で「介護ウェーブ」の前進へ団結を固める



6月13日（土）介護職部会発足のつどいをおこない、土曜日の夜にも関わらず91名の介護職員が集まり、講演・リレートーク・交流をおこないました。「介護ってすばらしいーもえつきないためにー」というテーマで社会福祉法人こばと会事務局長の正森克也氏が介護職のまわりで起こっていること、介護職員が抱えている共通の悩み、介護の専門性を語り福祉の在り方を問う民医連綱領に誇りを持ってといったことをわかりやすく講演いただきました。事業所リレートークでは事業所の紹介や介護に対する想

いを報告していただき、運営委員長の矢島圭さんが介護職部会運営委員の紹介と委員長のあいさつ、介護職部会2009年度行動提起をおこない、介護職部会発足のつどいを閉会しました。つどいのあと交流会をおこない56名が残っていただきさらに深く交流しました。参加者からは改めて民医連の良さに気づかされました。日常私たちが忙しさに追われ利用者の声を聞くことが少なくなっている現状を反省しています。憲法25条を久々に聴いて、介護福祉士としての在り方を確認できるわかりやすい講演でした。安心できる生活を守っていきたいと思いました。「やりがいは自ら得る」に共感しましたなどの感想が寄せられました。（2009.06.15 大阪民医連 介護福祉ニュース No.3より）



お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp